

第4回道の駅あらお（仮称）基本構想等策定委員会 議事録要旨

日 時：令和 元 年 10 月 2 日（水） 午後 2 時 00 分～午後 4 時 00 分
 場 所：荒尾市役所 11 号会議室
 議 題：1. 委員会の開催概要について
 2. 第3回委員会の振り返り
 3. 食に関する施設機能（案）の検討について
 出席者：波積真理委員長（熊本学園大学教授）、高橋伸佳氏（JTB 総合研究所所長）、高木洋一氏（荒尾商工会議所副会頭）、西川幸一氏（荒尾漁業協同組合代表理事組合長）、前田和隆氏（熊本北部漁業協同組合副組合長）、迎五男氏（玉名農業協同組合荒尾支所担当理事）、吉村信明氏（荒尾酪農業協同組合代表理事組合長）、古城義郎氏（荒尾市農業委員会会長）、畑添美香氏（消費者代表）、水本博士氏（荒尾市観光協会専務理事※代理出席）、田頭スエカ氏（荒尾市食生活改善推進員協議会会員※代理出席）、長江亮氏（独立行政法人都市再生機構九州支社都市再生部市街地整備第2課長※代理出席）、北原伸二氏（荒尾市産業建設部長）
 事務局：田中産業振興課長、米田農林水産課長、末永都市計画課長、田川政策企画課長、高村産業振興課長補佐兼道の駅整備推進室長、松本産業振興課参事、株式会社マインドシェア

1.開会

田中産業振興課長が開会を宣言し、資料の確認を行った。

2.欠席委員及び代理出席者の紹介

田中産業振興課長から、欠席委員及び代理出席者を紹介した。

3.委員長あいさつ

本日もお忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。台風が心配であったが、無事開催できて安心している。

会の内容もいよいよ具体的に見えるような形になってきた。皆様方の真剣なご討議の結果である。本日も大事な議題があるため、活発なご意見をお願いしたい。

4.議事

（1）委員会の開催概要について

事務局が、資料1に基づき本委員会の日程等について提示した。

意見や質問等はなく、承認された。

(2) 第3回委員会の振り返り

①第3回委員会意見の取りまとめ

②コンセプトと機能のつながりについて

事務局が、資料2に基づき第3回委員会意見の取りまとめについて説明し、引き続き、資料3に基づきコンセプトと機能のつながりについて説明した。

内容について意見交換がなされた。

(主な意見)

○コンセプトに沿った機能として、瞬発力UP、持久力UP、疲労回復、身体を使う人向け、頭を使う人向けなど、素晴らしいことばかり書いているが、具体的にどのようなことをしたら良いのか。このようにオールマイティのもではなく、ある程度絞った方が良いのではないか。

【事務局】

⇒示した機能は、ウェルネスを意識しており、全てを1つの機能やメニューというよりも、様々なメニューで、荒尾らしさというものを考案していきたいということでお示ししている。

○最先端なモノなどと色々示してあるが、価格設定はある程度決めているのか。

例えば、道の駅であればお昼ご飯が中心になってくると思うが、このようなコンセプトを満たしたいと思っても高額では手が出せないと思う。他の道の駅では、1,500円～2,000円前後で、ビュッフェスタイルの食事が多いと思うが、そのような検討はしているのか。

【事務局】

⇒具体的な価格設定については、基本計画以降に市場調査等を踏まえて決めていきたいと考えている。また、色々な道の駅を見ながら、どれくらいの価格設定であるのかを念頭に考えていく。

○資料3「道の駅を創造する機能」において、消費者向け、生活者向けの価値のことが主に示されていると思うが、生産者に対するメッセージも入れてみてはどうか。

アメリカのニューシーズンズ・マーケットというスーパーマーケットでは、地産地消の食材を売って、そのスーパーマーケットが出店すると、地域の地価が上がるという有名なスーパーマーケットである。

ここのコンセプトが、①オーガニック、②サスティナブル(持続可能性)③ローカルの3点で、特に感銘を受けたのが、②サスティナブル(持続可能性)である。未来に亘って、我々の子ども、孫に地域の食を伝承していくような着眼点でスーパーが運営されていた。具体的には、地域の生産者と、そのスーパーが長期契約、あるいは、直接契約をして、安心して生産者の方々を事業に従事させ、生産者と一緒にスーパーマーケットを成長させるモデルが描かれていた。

作っている人たちの価値を入れていくと、もっと崇高な理念になるのではないか。

生産者が減っていき、食をどう調達するのか。という意見もあるが、安心して事業に取り組めるシステムの成功事例は世界中にある。

○生産者側の視点というものは非常に重要であり、何かしらの取り入れを考えていただけたらと思う。

【事務局】

⇒後ほどの説明にもあるが、地産地消というものが、道の駅の直売所では必須と考えている。地産地消を行うことによって、買う側も色々なプレミアムを受けることができ、生産者の方も自分たちが生産したものが、市内で消費されることにより経済の好循環にもつながる。

(3) 食に関する施設機能(案)の検討について

①食に関する施設機能(案)について

事務局が、資料4に基づき食に関する施設機能(案)について説明した。
内容について意見交換がなされた。

(主な意見)

○機能整理における方法論的な内容であるが、想定ターゲットをどこかに入れた方が良いのではないか。以降のページでは触れてあるが、ターゲットを誰に向けたものなのかを整理していくと、毎日使うものなのか、あるいはイベント的に買いにくるものなのか、色々な意味でプロント的に整理できると思う。

○道の駅に隣接した場所に、緑の公園や緑地帯を作る計画になっていると思うが、その場所に、グラウンドゴルフをされる方や、保育園、幼稚園、小学校を含んだ子ども達が遊びにくると思う。その方達や団体で食事ということになれば、弁当の需要があるのではないかと。弁当を売ることによって、荒尾の食材が生きてくるのではないかと。生鮮食品で売った場合、1,2日で賞味期限となり、あさり、えび、マジックナリを仕入れて売ろうと思っても日持ちしないため、加工して、弁当などに使用する方法もあると思うが、どのように考えているか。

【事務局】

⇒体験メニュー等と合わせた弁当の提供や、弁当を持って散歩してもらうなどのアイデアも考えられるため、今後、計画等に反映させていきたい。

○機能(案)の掛け合わせについては、(志向性・ニーズが7項目であり)7×7の組み合わせができるため、あえて強制的に発想してみる方法もあるのではないかと。例えば、「健康」と「にぎわい」は一見親和性がなさそうであるが、あえて掛け合わせるとすれば、資料に提示さ

れている健康関連サービスをイベント化する、あるいは観光商品化するといったことが考えられる。

また、「健康」と「時間の過ごし方」で考えると、南新地の特徴は有明海に面する空間性にあり、そこでゆったり過ごしながら健康な食を味わうなどといったことが考えられる。

○夢のような機能やお店などが示されてあるが、これを運営するのは荒尾市か。

【事務局】

⇒直営ではなく、運営したいという民間の事業者を公募することになると考えている。

○やりたいという事業者がいなければ実現しない。民間の事業者は利益を求められると思うが、そういうところに市からの支援などはあるのか。それとも丸投げになるのか。やりたいという事業者がどれくらいいるのかなど、調べているのか。夢を語るのはとても良い。消費者も美味しいものを食べたいという理想はある。その理想を実現してくれる事業者を公募するのか。場所を提供するだけの公募なのか。

【事務局】

⇒運営事業者を公募するに当たっては、特に公共施設であるため、方向性や期待や市民の想いも含めたところで基本構想・基本計画を示して、その後に業者を公募することになる。細かい決まり事を設定して公募するわけではなく、市では方向性などを示し、事業者側からは運営の内容等について提案もあると考えており、そのようなことを踏まえて判断し、選定していくことになると考えている。

○市は、運営に際して何にも関わらず、コスト的な負担はしないということか。何かしらの支援というものはあるのか。

【事務局】

⇒今の状況は、第一段階として基本構想を作っている。荒尾の道の駅は、どうあるべきか、どういうことを目指していくべきか、こういう方向性に行かないといけない。など大きな考え方を整理している。現実を踏まえつつも夢を見ながら、その中間を整理している段階である。これが、来年の基本計画に入っていくと、この基本構想で作った大きな方向性に基づいて、具体的にどうするのかという話を詰めていく段階に入っていく。経営については、市からの支出など、公共性をどれだけ持たせるのかという部分に関わってくるが、行政として収益は上がらないがこれはやってもらいたい。というものがあれば、市の方から助成等があるかもしれないし、経済性を求めないといけない部分については、経営者に実行してもらわないといけないなど、基本計画の中で、どのような施設配置にしていくのかを決めていく中で、検討していくことになると考えている。

今は、楽しいことを考えながら、10年後、20年後にこうなりたいと語っていくことが必要であると捉え、案として色々お示しているところである。

○コンシェルジュ、コーディネーターの配置とあることに関連して、例えば、地元の食材を使って作ったモノが店頭にあったとしても、その良さは分かりにくい。背景には、本当は色々な方がご苦労されて作っているストーリーがあると思うが、そのような部分が見えないと、なかなか手が伸びない部分がある。

いいなと思った先に購買につなげるという意味で、モノの良さを知ってもらうこと、試食して味を知り、背景のストーリーも理解してもらうことが重要と感じている。それがリピーターにもつながり、南新地の応援団になってもらう仕掛けにもなるのではないかな。

○理想ばかり見るのではなく、マジック、あさり、イソギンチャク、タイラギなど海産物、また、荒尾酪農の乳製品を使用した商品など、もう少し具体的に示してもらえれば意見も出しやすかった。

【事務局】

⇒その件に関しては、資料5(次の議事)で多少話をさせていただく。

○発想を広げてアイデア出しをすると、色々出てくると思うが、近隣施設との競合の視点からは、近隣施設が提供しているサービスとの比較でアイデアを評価することも重要と考える。

②本市における農水産物の特徴について

事務局が、資料5に基づき本市における農水産物の特徴について説明した。

内容について意見交換がなされた。

(主な意見)

○説明いただいた資料を見ると、荒尾の農水産物としてフルーツに特徴があるということが分かった。他の道の駅は野菜中心であるが、荒尾であれば特徴ある農水産物など、他の地域にはないような地域性がある生産物を供給していただけるのではないかな。

○10年くらい前から取り組んでいるオリーブは、今年度は3トンくらい収穫があったと聞いている。オリーブのイメージは西洋の雰囲気があって良いと思う。資料内では、全く供給の見込みが入っていないが、オリーブオイルも含めて見込めないものか。

【事務局】

⇒資料内では、加工品のところにオリーブの加工品として多少お示しはしているが、今年でオリーブを植えて10年くらい経過している。生産者からは、コストになってから生産量が安定するのではないかと聞いているが、現時点では、安定供給について、はっきりとしたことは言えないとのことである。

○私もオリーブを栽培しており、今年は表年(おもてどし)で、全体で 3 トン程度取れると見込んでいたが、台風の影響で倒木があったため、少しは減っているのではないかと。まだ安定している量とは言えず、これ以上は、おそらく増えないのではないかと。今の量でどれくらいの油などが取れるかということであるが、ある程度しか見込めないと思う。

○オリーブであれば、体験等も可能になるのではないかと。

○オリーブ園の中に景色の良いレストランができて流行っている。

○そのようなところも連携していけば、若い人にも喜ばれる企画ができるのではないかと。

○前回の委員会でも少し触れた内容であるが、米、みかん、のり、アサリ、マジック、乳製品などがある中で、荒尾産という冠を付けて出せる産品がどの程度あるのか。

【事務局】

⇒漁協や酪農業団体に確認したが、基本的には全て荒尾産として出荷できそうである。

○思った以上に、色々なものの供給が期待できるということで、大変頼もしい。生産者育成の面でも期待している。

【事務局】

⇒出荷者数も当然であるが、量や質を含め、少しでも多く地場産品を提供できるように、取り組んでいきたい。

○野菜や果物については、荒尾産を利用したお菓子など結構あるのでは。以前、特産品開発ということで作っている。近所のスーパーで、梨タルトを 20 箱売っていた。梨クッキーや梨パイなど、色々作った。それらをもう一度検証してみたらどうか。

○資料で示されているとおり、供給見込みを出すのもいいが、それは今あるものに対してであり、消費者が何を求めているかをもっと追究してもらい、新たに取り組んでももらいたいというものを示すことができれば、もっと若手の農家はやる気が出てくるのではないかと。

スイカについても、幻のスイカと聞こえはいいが、生産者は 3 軒だけで道の駅への供給は難しいのではないかと。そのような中で、若手農家に対してスイカを作ってもらえないかなど、示していくことが大切である。あるものの中から、少し回して欲しいではなく、消費者が求めるものを把握し、それを作っていくような努力も必要である。

道の駅ができるまでの 3,4 年を準備期間として提案していくことも重要である。

【事務局】

⇒今後、生産者との意見交換や取組みを実施し、準備していきたい。

③直売施設における整備の方向性について

事務局が、資料 6 に基づき直売施設における整備の方向性について説明した。

内容について意見交換がなされた。

(主な意見)

○地元の商品を売ることで、地元の農家の所得を向上させたい。地域経済を循環させたいという思いが根底にある。時間消費型、体験交流、景観を楽しむものだけではないということだが、道の駅あらお(仮称)の非常に大きな方向性だと考えている。

具体的な方向性としたら、小規模か、大規模ということは極端であるが、考え方として、小規模として地元産品を中心にいくのか。大規模としては、足りないものを他所から集めてでも品揃えを充実させていくのか。分かりやすく方向性を示されているところである。

○むずかしい問題であるが、私は、大規模は無理だと感じている。大きな規模の道の駅は、荒尾市内では難しいと思っている。

○近隣道の駅で指定管理者(第三セクター)として JA が絡んでいるところはあるか。

【事務局】

⇒資料内で示した道の駅には、JA が絡んでいるところはない。全国の道の駅の運営形態のスタイルとしては、基本的に指定管理が多いが、芦北のデコポンは JA が直営している。JA が運営しているところは、ほとんどが道の駅ではなく直売所の形態になっていると思う。

○誰が経営するかで、かなり変わってくると思う。我々が大規模または小規模で運営してください。という話ではなく、経営者が見て、このような経営をしたいから参入する。という話になってくるため、ここで大規模、小規模が決まるものではない。

【事務局】

⇒規模そのものを、今決定するということではない。

方向性として、地場産品を押し出して荒尾らしさを出していくのか、それとも、何が何でも品揃えにこだわり、スーパーにも負けないという方向性でいくのかというところを、規模に置き換え、一つの切り口として考えていただきたいということである。規模自体については、最終的には市場調査等を踏まえて売上予測を算出し、そこから規模が決定していくものであると考えており、面積や用地などの要素も踏まえて決まってくると想定している。

○消費者にとって、道の駅に行けば何でも揃うというのは、一番の願いであると思うが、農産物の集荷の中で、特に夏場は荒尾産の野菜はほとんどない。夏場商品がないのであれば、寒冷地、例えば、阿蘇あたりから仕入れ商品として持ってくるしかない。大規模とすれば仕入れ商品もそれだけ増やさなければならない。小規模であれば、地場産ならではの商品として野菜・果物が揃うということになる。新鮮・安心・値頃な価格、この 3 つが揃えば、消費者にとっては、また買い物に行こうという気持ちになるかと思う。また、生産者にとっても、所得の向上につながるため、荒尾産ならではの方向でスタートし、徐々に大きくしていった方がよいのではないか。

○マーチャндаイジング(商品・場所・時期・数量・価格等の適正を計画するもの。)ベースで議論しなければ結論はでないと考えている。どういったものをどれくらい売なのか、売れるのか、価格設定はどうかを考えなければ、大規模、小規模もない。どこの事業者になるかにもよるが、産品が決まり、それを構成した品揃えでどこまでいけるのかというところを試算し、

その上で議論していくと希望的な規模がある程度見えてくる。

季節毎の品揃えを検討したとしても、当然収穫量も取れる種類も決まってくると思う。現実ベースで見えていくと、ある程度の物流も試算できるため、そのような資料があると更に考えやすくなるのではないかな。

○地域商圈として、建設を予定している場所は、恐ろしい競合条件があるということを前提しなければならない。特に、10 分圏内にはイオンモール、15 分圏内にはシティモール、ゆめタウンがある。その近辺には、ドラックストアがあり、鮮度市場、ダイレックスなど全てのお店が集合している。

先ほどの提案でいくと、小規模タイプで日常買いの地元のお客様に使っていただく戦いができるのか。また、近隣の道の駅の繁栄に及ばないところがあるのも事実であり、民間と戦える施設にするためにどうするか。成功させるとするならば、道の駅に隣接する店舗として強い店舗が必要ではなかろうかと思っている。

○この構想により、日本で初めての施設ができると思う。成功した例で見ると、市外・県外の方を誘致することで、そこが大きく伸びている事実がある。福岡の糸島・松橋などはバスを誘致し、観光会社とタイアップして、そこを最終地点にする。それにより、滞在時間を 2 時間とってもらえる。飲食を含めて 2 時間滞在してもらうことで、その分だけ購買意欲が出てくる。一方で、駐車場が満杯になる問題も起きる。

これだけの構想があるため、健康とタイアップし、1泊 2 日のツアーでも十分まかなえる形に落とし込めば、他にはないようなものができる。その中の一環として、RV パーク(キャンパーの泊まれる場所)は、九州ではまだ少ない。近郊でいうと菊水、水辺プラザにある。水辺プラザは SNS により、キャンパーの集いという形で広がっている。そのような滞留型の集いの空間ができれば本当に素晴らしい形になる。

○他の施設との連携や競合とどう差別化していくのかといったようなことも明確に示していかなければならない。

5.その他

田中産業振興課長が、次回の委員会開催については、11 月下旬に開催する意向を伝えた。

6.閉会

田中産業振興課長が、閉会を宣言した。